様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：２３８０３
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ００００１７

研究課題名（和文）暴力を語ること・表象することをめぐる根源的問題についての領域横断的研究

研究課題名（英文）A Transdisciplinary Research on the Fundamental Problem concerning Talking about and Representing Violence

研究代表者
飯野　勝己（Iino, Katsumi）

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：７０５５１７２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間内に計4回の研究会を行った。研究代表者・分担者の計9名に、時にゲストも交え、各自の研究発表とそれにもとづく討議を行った。それら本共同研究の初期における成果と、これに先立つ科研費共同研究（基盤研究C「「暴力」の多様な存在様態に関する領域横断的研究」平成27～29年度）を合わせ、総合的な研究成果として論集『暴力をめぐる哲学』（飯野勝己・樋口浩造編、晃洋書房、2019年刊。本共同研究代表者・分担者全員が執筆）を刊行した。またその後も、学会発表や論文刊行を通じて、各自が本共同研究の成果を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
現代社会における「暴力」の問題は、その事象自体の際限ない多様化――物理的暴力だけでなく、言説的暴力、象徴的暴力、構造的暴力等々へと拡散し続けている――に応じて、多様なアプローチによる領域横断的研究を必要としている。その点で、哲学、倫理学、宗教思想、日本思想等々多様な専門領域の研究者が共同して行った本研究と、共著論集に代表される研究成果は、時代の要請に対応した学術的・社会的意義を有する。とりわけ、「暴力の撲滅」をうたう言説がそれ自体として暴力に反転する、といった複雑さや微妙さを見据えつつ執筆された本研究における諸論考は、大きな意義を持つと考えている。

研究成果の概要（英文）：We had four research meetings within this research period. On the meetings 9 research members including research representative and co-researchers, sometimes with several guests, did each one's research presentation and had discussions. Based on such early research results, with preceding results (from basic research C "A Transdisciplinary Research on the Multiple Mode of Violence's existence", Heisei27-29), we published our comprehensive research result (Philosophy over Violence, eds. Katsumi Iino and Kozo Higuchi, Koyo Shobo, Kyoto, 2019). And after that, each of us kept on publication of our research results through conference representations or paper writings.

研究分野：哲学、言語哲学

キーワード：哲学　倫理学　思想史　宗教学　心理学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の背景は第一に、従来哲学や倫理学の分野でさまざまに展開されてきた暴力をめぐる考察にあり、第二にそれら分野以外、もしくは社会一般のさまざまな領域で語られる暴力をめぐる多様な言説にある。後者の例としては歴史記述、宗教の教え、事件や社会問題の報道、文学や映画等のフィクションなどが挙げられる。しかしそれらは真に暴力を伝えるものになっているのか。そして哲学や倫理学における暴力分析は、そうした暴力表象のありように対応したものになってきたのか。「ホロコーストは表象不可能」と言われるように、そこには何か根源的な問題や困難がはらまれているのではないだろうか。本研究は学術研究および社会一般におけるそうした現状と、それらに対する疑問を背景にして計画され、遂行された。

２．研究の目的

まず、研究課題の核心をなす学術的「問い」として以下の３つを設定した。

(1)暴力の語りと表象にまつわる根源的問題はどのようなものか。またそれはどんな困難をはらみ、その要因はどこにあるのか。

(2)もしその問題が解決可能だとしたら、その可能性はどんな方向にあるのか。

(3)その可能的な語り・表象は、暴力そのものの克服に資することができるのか。

そしてそれを元に、以下の２点を目的とした。

(1)表面的には暴力を語り、表象しながらも、しかし同時にその「合理化」や「隠蔽」を招いてしまう人間的機制を明らかにすること。そしてそのうえで、

(2)暴力のありようを可視化し、その克服へと資することができるような語り・表象の可能性を探ること。

３．研究の方法

多様な学問的背景をもつメンバーが研究課題を広く共有しつつ、同時に自身の領域の特性を生かして独自の研究を深める、ということを方法とする。具体的には研究会の開催を中心に、各自が自身の考察を発表し、それを全員で検討して共通テーマとの関連を議論し、再び個々のメンバーがそれをふまえて自身の考察を深める、といったフィードバックを繰り返しつつ、共同研究を進めていく。

４．研究成果

研究期間内に計 4 回の研究会を行った。研究代表者・分担者の計 9 名に、時にゲストも交え、各自の研究発表とそれにもとづく討議を行った。それら本共同研究の初期における成果と、これに先立つ科研費共同研究（基盤研究 C「「暴力」の多様な存在様態に関する領域横断的研究」平成 27～29 年度）を合わせ、総合的な研究成果として論集『暴力をめぐる哲学』（飯野勝己・樋口浩造編、晃洋書房、2019 年刊。本共同研究代表者・分担者全員が執筆）を刊行した。またその後も、学会発表や論文刊行を通じて、各自が本共同研究の成果を公表した。

なお、当初は年２回、計画期間中計６回の研究会開催を予定していたが、新型コロナ感染拡大によりその計画は大きく変更することを余儀なくされた。二回にわたり期間延長を申請し、許可されたが、それでもコロナ以前の２回および以後の２回と、期間中の開催は計４回にとどまり、対面での討論を重視する本共同研究としてはかなりの痛手であった。しかし期間中に共著論集の刊行が実現でき、また研究機関終了後も本研究を機縁とするプロジェクトが進行する

など（たとえば研究代表者は精神科看護の研究者と共同で、そうした観点からの暴力研究を進めつつある）、本研究の成果はなおも展開されつつある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計14件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　9件）

１．著者名 新田智通	４．巻 第101巻1号
２．論文標題 十九世紀ヨーロッパにおける「人間ブッダ」の誕生と啓蒙主義的先入見――オズレーとビュルヌフを中心に	５．発行年 2021年
３．雑誌名 大谷学報	６．最初と最後の頁 25-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 伊沢慧・中野良樹	４．巻 第44号
２．論文標題 大学生による遠隔コミュニケーションでの協働作業において言語表現の形態が二者間の会話行動に及ぼす促進効果	５．発行年 2022年
３．雑誌名 秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要	６．最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 藤村安芸子	４．巻 第60号
２．論文標題 「聖者」と「自然児」――大正時代の和辻哲郎の思想	５．発行年 2020年
３．雑誌名 駿河台大学論叢	６．最初と最後の頁 63－77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 杉浦茜・樋口浩造	４．巻 第12号
２．論文標題 知多飛行場に関する一考察――大府中国人強制連行研究に向けて	５．発行年 2021年
３．雑誌名 愛知県立大学日本文化学論集	６．最初と最後の頁 1-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 飯野勝己、坪井雅史、上石学	4．巻 35
2．論文標題 「暴力の哲学」に向けて――暴力とは何か、いかにして回避されうるか	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東北哲学会年報	6．最初と最後の頁 69-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 相澤伸依	4．巻 146
2．論文標題 フランスの中絶解放運動における三つのマニフェスト――紹介と考察	5．発行年 2020年
3．雑誌名 東京経済大学 人文自然科学論集	6．最初と最後の頁 115-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩野祐介	4．巻 22
2．論文標題 書評　関根清三著『内村鑑三　その聖書読解と危機の時代』	5．発行年 2020年
3．雑誌名 無教会研究	6．最初と最後の頁 73-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩野祐介	4．巻 52
2．論文標題 書評　川中子義勝『悲哀の人　矢内原忠雄　没後五十年を経て改めて読み直す』、赤江達也『矢内原忠雄　戦争と知識人の使命』	5．発行年 2019年
3．雑誌名 内村鑑三研究	6．最初と最後の頁 105-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 新田智通	4．巻 109
2．論文標題 仏教における輪廻説の再検討――パーリ文献によりながら（前編）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 仏教学セミナー	6．最初と最後の頁 184-159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 新田智通	4．巻 110
2．論文標題 仏教における輪廻説の再検討――パーリ文献によりながら（中編）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 仏教学セミナー	6．最初と最後の頁 146-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 相澤伸依	4．巻 144号
2．論文標題 研究ノート：意志と欲望――『肉の告白』におけるフーコーのアウグスティヌス読解	5．発行年 2019年
3．雑誌名 東京経済大学 人文自然科学論集	6．最初と最後の頁 245-254
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 新田智通	4．巻 7号
2．論文標題 心理学と擬似スピリチュアリティー――伝統学派による批判的考察を手がかりとして（後編）	5．発行年 2019年
3．雑誌名 グリーフケア	6．最初と最後の頁 33-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 岩野祐介	4．巻 2018春号
2．論文標題 内村鑑三と「非国民」	5．発行年 2018年
3．雑誌名 キリスト教文化	6．最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 岩野祐介	4．巻 第21号
2．論文標題 無教会キリスト教における師弟関係の諸相	5．発行年 2023年
3．雑誌名 アジア・キリスト教・多元性	6．最初と最後の頁 7-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計18件（うち招待講演　5件／うち国際学会　3件）

1．発表者名 岩野祐介
2．発表標題 初期日本プロテスタント・キリスト者におけるピューリタニズム受容――内村鑑三、新渡戸稲造における武士道とピューリタニズム
3．学会等名 日本ピューリタニズム学会関西研究会
4．発表年 2021年

1．発表者名 岩野祐介
2．発表標題 斎藤宗次郎関連資料の復刻――『聴講五年』と『内村鑑三先生の足跡』
3．学会等名 キリスト教史学会西日本部会
4．発表年 2022年

１．発表者名 飯野勝己
２．発表標題 知識と暴力――負債、場所、正当化と弁解のあわい
３．学会等名 京都生命倫理研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 飯野勝己
２．発表標題 暴力概念をめぐって――概念群の地層、場所としての暴力、そして正当化・弁解
３．学会等名 研究会・精神科病棟でのケアにおける暴力概念の複雑さをめぐって（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 飯野勝己
２．発表標題 言語行為論とその暴力論的展開／転回について――あるいは、来たるべき哲学者としてのオースティン
３．学会等名 21K10680 基盤研究（C） 精神科領域で当事者と共に安心の場を創る改良型包括的暴力防止プログラムの作成 研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 新田智通
２．発表標題 「仏教的尊厳」と人権思想
３．学会等名 第71回日本印度学仏教学会学術大会（創価大学、オンライン開催）、パネル「「人間の尊厳」と仏教」（代表　前川健一）
４．発表年 2020年

１．発表者名 岩野祐介
２．発表標題 書評　役重善洋『近代日本の植民地主義とジェンタイル・シオニズム――内村鑑三・矢内原忠雄・中田重治におけるナショナリズムと世界認識』
３．学会等名 「アジア・キリスト教・多元性」研究会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 新田智通
２．発表標題 仏とは誰か――初期経典の伝える釈尊観を手がかりとして
３．学会等名 浄土宗教化高等講習会（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 Tomomichi Nitta
２．発表標題 Buddhaghosa's Understanding of Samsara
３．学会等名 New Horizons in Buddhist Studies（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 飯野勝己・坪井雅史・上石学
２．発表標題 ワークショップ「暴力の哲学」に向けて――暴力とは何か、いかにして回避されうるか：提題１・何が傷つき、壊されるのか――「場所への暴力」試論（飯野）、提題2・構造的暴力としてのヘイト・スピーチ（坪井）、提題3・暴力におけるミーメーシスとアイデンティティ（上石）
３．学会等名 東北哲学会第68回大会（招待講演）
４．発表年 2018年

１．発表者名 AIZAWA Nobuyo
２．発表標題 Comment les mouvements de 1968 ont influence le feminisme japonais ? - le cas de Mitsu Tanaka, une icone du feminisme japonais -
３．学会等名 Colloque international: Il y a 50 ans, mai 68（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 AIZAWA Nobuyo
２．発表標題 Chupiren, un essai manque dans le mouvement feministe japonais des annees 1970
３．学会等名 12th Conference of the International Federation for Research on Women’s History（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 相澤伸依
２．発表標題 意志と主体――『肉の告白』におけるフーコーのアウグスティヌス読解
３．学会等名 共同研究「フーコー研究――人文科学の再批判と新展開」
４．発表年 2018年

１．発表者名 相澤伸依
２．発表標題 La Societe punitiveを読む――le penalとle punitifをつなぐla moralに注目して
３．学会等名 共同研究「フーコー研究――人文科学の再批判と新展開」
４．発表年 2019年

１．発表者名 新田智通
２．発表標題 「ブッダは輪廻を説いたのか」という再三議論されてきた問題について改めて考える
３．学会等名 大谷大学仏教学会2018年度研究例会
４．発表年 2018年

１．発表者名 岩野祐介
２．発表標題 パネル「キリスト教殉教と歴史的記憶」コメンテーター
３．学会等名 日本宗教学会第77回学術大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 藤村安芸子
２．発表標題 主題別討議「物語という方法」実施責任者
３．学会等名 日本倫理学会　第69回大会
４．発表年 2018年

１．発表者名 中野良樹、伊沢慧、齋藤桃子、千葉彩水
２．発表標題 心理専門職養成課程でのカウンセリング・ロールプレイ演習において混合研究法を用いた教育効果の検証（２）―質的分析ソフトMAXQDAを活用した発話プロトコルの分類―
３．学会等名 北海道心理学会・東北心理学会 第13回合同大会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計26件

1．著者名 斎藤宗次郎（編著）、児玉実英・ 岩野祐介（編）	4．発行年 2022年
2．出版社 教文館	5．総ページ数 100
3．書名 復刻・DVD版　内村鑑三先生の足跡（執筆項目・岩野祐介「解説　内村鑑三と斎藤宗次郎」33-37頁）	

1．著者名 小泉義之、立木康介、相澤伸依ほか	4．発行年 2021年
2．出版社 読書人	5．総ページ数 204
3．書名 狂い咲く、フーコー　京都大学人文科学研究所人文研アカデミー『フーコー研究』出版記念シンポジウム全記録＋（執筆148-152頁）	

1．著者名 佐藤嘉幸・立木康介（編）	4．発行年 2021年
2．出版社 水声社	5．総ページ数 386
3．書名 ミシェル・フーコー『コレージュ・ド・フランス講義』を読む　（所収論文・相澤伸依「懲罰社会のその先へ―フーコー『懲罰社会』をめぐる一考察」123-145頁）	

1．著者名 小泉義之・立木康介（編）	4．発行年 2021年
2．出版社 岩波書店	5．総ページ数 590
3．書名 フーコー研究　（所収論文・相澤伸依「フランスの中絶解放運動とフーコー　―GISの活動から」338-355頁）	

1．著者名 Eileen Boris, Sandra Trudgen Dawson, Barbara Molony (eds.)	4．発行年 2020年
2．出版社 Routledge	5．総ページ数 310
3．書名 Engendering Transnational Transgressions: From the Intimate to the Global（所収論文・Chiharu CHUJO, Nobuyo AIZAWA "Women’s movements in 1970s Japan: transgression and rejection",pp.133-146）	

1．著者名 木村純二・吉田真樹（編）	4．発行年 2021年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 301
3．書名 和辻哲郎の人文学（所収論文・藤村安芸子「和辻「風土」論再考－大正時代の問いのゆくえ－」66-92頁）	

1．著者名 鈴木範久（監修）・日本キリスト教歴史大事典編集委員会（編）	4．発行年 2020年
2．出版社 教文館	5．総ページ数 982
3．書名 日本キリスト教歴史人名事典（項目執筆・岩野祐介「藤井孝夫」「松木治三郎」「松村克己」「山川道子」）	

1．著者名 日本仏教学会（編）	4．発行年 2021年
2．出版社 丸善出版	5．総ページ数 724
3．書名 仏教事典（項目執筆・新田智通「ブッダの尊称」36-37頁）	

１．著者名 日本思想史事典編集委員会（編）（藤村安芸子は編集委員の一人）	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 718
３．書名 日本思想史事典（項目執筆・藤村安芸子「善悪」「物語」「石原莞爾と宮澤賢治」、48-51，142-145，632-633頁）	

１．著者名 日本思想史事典編集委員会（編）（藤村安芸子は編集委員の一人）	４．発行年 2020年
２．出版社 丸善出版	５．総ページ数 718
３．書名 日本思想史事典（項目執筆・樋口浩造「日本意識の浮上」456-457頁）	

１．著者名 関西学院大学神学部（編）	４．発行年 2020年
２．出版社 キリスト新聞社	５．総ページ数 146
３．書名 関西学院大学神学部ブックレット１２　聖書と現代（所収論文・岩野祐介「日本と聖書、日本語と聖書の言葉」37-51頁)	

１．著者名 大柳貴、小林敬、上石学	４．発行年 2019年
２．出版社 ブイツーソリューション	５．総ページ数 162
３．書名 交わりの哲学――ガブリエル・マルセルと二十一世紀の私たち（所収論文・上石学「ガブリエル・マルセルの思想における「愛の精神」――「抽象化の精神」の克服と演劇を中心とする共同体の可能性」42-69頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・飯野勝己「暴力はいかにして哲学の問題になるのか」1-16頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・上石学「暴力におけるミーメーシスとアイデンティティ」19-44頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・新田智通「文化と暴力――伝統的アート理論に基づく現代的暴力への洞察」45-89頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・中野良樹「暴力の行使と制止の行動科学」90-128頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・岩野祐介「日本キリスト教思想史における暴力理解――内村鑑三の暴力論」131-159頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・樋口浩造「暴力を直視する――語り直される暴力をめぐって」160-187頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・坪井雅史「構造的暴力としてのヘイト・スピーチ」188-214頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・飯野勝己「ひとつの暴力・いくつもの暴力――「場所への暴力」試論」)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・相澤伸依「語りをめぐる暴力――ミシェル・フーコーと監獄情報グループの活動から」244-262頁)	

1．著者名 飯野勝己・樋口浩造編著	4．発行年 2019年
2．出版社 晃洋書房	5．総ページ数 308
3．書名 暴力をめぐる哲学(所収論文・藤村安芸子「荒ぶる思いのゆくえ――謡曲「葵上」を手がかりとして」263-288頁)	

1．著者名 上原雅文編著	4．発行年 2019年
2．出版社 御茶の水書房	5．総ページ数 279
3．書名 自然・人間・神々（所収論文・坪井雅史「鯨塚から考える日本人の自然観と倫理」185-210頁）	

１．著者名 Ｊ．　Ｌ・オースティン著、飯野勝己訳	４．発行年 2019年
２．出版社 講談社（講談社学術文庫）	５．総ページ数 312
３．書名 言語と行為――いかにして言葉でものごとを行うか	

１．著者名 A．バズ著、飯野勝己訳	４．発行年 2022年
２．出版社 勁草書房	５．総ページ数 322
３．書名 言葉が呼び求められるとき――日常言語哲学の復権	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	岡田　安芸子（藤村安芸子） (Okada Fujimura Akiko) (20323561)	駿河台大学・スポーツ科学部・教授 (32411)	
研究分担者	坪井　雅史 (Tsuboi Masashi) (20386816)	神奈川大学・国際日本学部・教授 (32702)	
研究分担者	岩野　祐介 (Iwano Yuusuke) (20509921)	関西学院大学・神学部・教授 (34504)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	樋口　浩造 (Higuchi Kouzou) (30243140)	愛知県立大学・日本文化学部・教授 (23901)	
研究分担者	新田　智通 (Nitta Tomomichi) (40612891)	大谷大学・文学部・准教授 (34301)	
研究分担者	中野　良樹 (Nakano Yoshiki) (50310991)	秋田大学・教育文化学部・教授 (11401)	
研究分担者	上石　学 (Kamiishi Manabu) (70349166)	聖心女子大学・現代教養学部・准教授 (32631)	
研究分担者	相澤　伸依 (Aizawa Nobuyo) (80580860)	東京経済大学・全学共通教育センター・教授 (32649)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関